

- スズケンメディカル. 2012;15:11-12.
14. 三角由香里, 小久江伸介, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, チアマゾール. スズケンファーマ. 2012;15:2-5.
 15. 高田龍平, 山本英明, 増尾友佑, 山梨義英, 鈴木洋史: コレステロールの消化管吸収・胆汁排泄と NPC1L1・ABCG5/G8. *The Lipid*. 2012;23:238-244.
 16. 高田龍平: 生活習慣病とトランスポーター. *薬事日報*. 2012;12:4.
 17. 高田龍平: 尿酸トランスポーターと疾患. *ファルマシア*. 2012;48:1144-1148.
 18. 高田龍平: 尿酸トランスポーターと高尿酸血症・痛風発作について教えてください. *腎と透析*. 2012;73:364-368.
 19. 高田龍平: 生活習慣病関連物質のトランスポーターによる体内動態制御に関する研究. *薬事日報*. 2012;3:22.
 20. 柳原良次, 苔米地敬, 阿部敏秀, 折山豊仁, 片岡ヤス子, 小見山智恵子, 中島克佳, 鈴木洋史: 抗悪性腫瘍薬の混合調製から投与、廃棄までを考慮した曝露防止器材(ケモセーフ)の評価. *医療薬学*. 2013;39.
 21. 豊田優, 高田龍平: トランスポーターと疾患研究の最前線 生活習慣病とトランスポーター. *医学のあゆみ*. 2013;245:23-29.
 22. 中山昌喜, 松尾洋孝, 高田龍平, 市田公美, 四ノ宮成祥: ABCG2と高尿酸血症. *高尿酸血症と痛風*. 2013;21:43-48.
 23. 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史: リスクマネジメント 院内での薬剤師の活動 医療現場における薬物相互作用の網羅的な予測と注意喚起の重要性. *医薬ジャーナル*. 2013;49:727-733.
 24. 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史: 一歩進んだ相互作用マネジメント、医療の質を高めるための薬学的アプローチ(第6回) 吸収過程における消化管内での相互作用. *月刊薬事*. 2013;55:282-286.
 25. 大野能之, 樋坂章博, 山田麻衣子, 山本武人, 鈴木洋史: 腎臓病患者への薬物投与設計の理論と実際. *日本腎臓病薬物療法学会誌*. 2013;1:119-130.
 26. 小沢奈央子, 小久江伸介, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, デフェラシロクス. スズケンファーマ. 2013;16:2-5.
 27. 山本武人, 鈴木洋史: テーラーメイド医療 糖尿病における現状と展望(第8回) テーラーメイド医療に必要な基礎知識 遺伝子解析ゲノム薬理学(薬物代謝・薬物反応性関連遺伝子). *月刊糖尿病*. 2013;5:94-104.
 28. 高田龍平, 松尾洋孝, 市田公美: 尿酸排出トランスポーターと高尿酸血症の新たな発症メカニズム. *日本医事新報*. 2013;4637:48-49.
 29. 高田龍平: トランスポーターによ

- る生活習慣病関連物質の体内動態制御機構の解明. *Drug Delivery System*. 2013;28:154-155.
30. 澤田康文, 大谷壽一, 本間真人, 幸田幸直, 堀里子, 金田亜季子, 山本康次郎, 大野能之, 鈴木洋史, 佐藤宏樹, 鈴木理恵, 三木晶子: 処方変更で迷わない! 循環器治療薬の使い分けと代替薬の選び方. 2012.
31. 櫻井愛, 山本武人, 大野能之, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, ドネペジル. *スズケンメディカル*. 2012;15:11-12.
32. 鈴木理恵, 本多秀俊, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, メシル酸ガレノキサシン水和物. *スズケンファーマ*. 2012;15:2-5.
33. 鈴木雄太, 阿部敏秀, 山本武人, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, デフェラシロクス. *スズケンメディカル*. 2012;16:11-12.
34. 樋坂章博, 大野能之, 鈴木洋史: 一步進んだ相互作用マネジメント, 医療の質を高めるための薬学的アプローチ(第4回) FDAの相互作用ガイダンス. *月刊薬事*. 2012;54:1888-1893.
35. 奈良克彦, 山本武人, 阿部敏秀, 大野能之, 鈴木洋史: ドラッグコンサルテーション, ダビガトランエテキシラート. *スズケンメディカル*. 2012;15:11-12.
36. 田畑泰江, 本多秀俊, 大野能之, 鈴木洋史: Let's! 服薬コミュニケーション, ファムシクロビル. *スズケンファーマ*. 2012;15:2-5.
37. 千葉俊周, 松尾洋孝, 中山昌喜, 市田公美, 四ノ宮成祥: 遺伝性腎性低尿酸血症. *日本臨床*. 2012;807-11.
38. 千葉俊周, 松尾洋孝, 市田公美, 四ノ宮成祥: 低尿酸血症の頻度, 原因, 分類を教えてください. *腎と透析*. 2012;301-4.
39. 中山昌喜, 松尾洋孝, 市田公美, 四ノ宮成祥: 【腎疾患治療マニュアル2012-13】尿細管疾患 尿細管機能異常症 腎性低尿酸血症. *腎と透析*. 2012;370-3.
40. 牧野利明: 今さら聞けない生薬・漢方薬 第1回～「生薬」とは何か. *医薬経済*. 2012;44-45.
41. 牧野利明: 今さら聞けない生薬・漢方薬 第2回～生薬の品質の確保. *医薬経済*. 2012;52-53.
42. 牧野利明: 今さら聞けない生薬・漢方薬 第3回～食薬区分について. *医薬経済*. 2012;52-53.
43. 牧野利明: 今さら聞けない生薬・漢方薬 第4回～生産現場から薬局へ納入されるまで. *医薬経済*. 2012;48-49.
44. 牧野利明: 今さら聞けない生薬・漢方薬 第5回～生産が患者に提供されるまで. *医薬経済*. 2012;46-47.
45. 牧野利明: 漢方薬理・最前線～小青竜湯①. *phil漢方*. 2013;41:9-11.
46. 牧野利明: 今さら聞けない生薬・漢方薬 第6回～生薬が原料の医

- 薬品製剤について. 医薬経済. 2013;46-47.
47. 牧野利明: 今さら聞けない生薬・漢方薬 第7回～医療用漢方エキス製剤について. 医薬経済. 2013;46-47.
48. 牧野利明: 今さら聞けない生薬・漢方薬 第8回～医療用漢方エキス製剤の適応. 医薬経済. 2013;46-47.
49. 牧野利明. 漢方薬理・最前線～小青竜湯②. phil漢方. 2013;42:9-11.
50. Makino T., Ohtake N. Mechanisms of licorice-induced pseudoaldosteronism, one of the most common side effects of traditional Japanese kampo medicine and traditional Chinese medicine. “Traditional Medicine – New Research” ed. Yoshiharu Motoo in p.135-146. Nova Science Publishers, New York, 2013

【学会発表】

1. 高田龍平, 市田公美, 松尾洋孝, 中山昌喜, 村上啓造, 山梨義英, 春日裕志, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史. ABCG2/BCRP による腸管への尿酸排泄の低下は腎外排泄低下型高尿酸血症を引き起こす. 日本薬剤学会第 25 年会. 2012 年 5 月 24 日～26 日;神戸.
2. 吉門崇, 高田龍平, 伊藤晃成, 三田智文, 鈴木洋史. チクロピジン代謝物の胆汁排泄による胆汁形成の変化—MRP2/ABCC2 の関与. 第 20 回肝病態生理研究会. 2012 年 6 月 6 日;金沢.
3. 豊田優, 中川大, 五味常明, 坂井靖夫, 中島正洋, 吉浦孝一郎, 新川詔夫, 高田龍平, 鈴木洋史, 石川智久. ヒト ABCC11 遺伝子型とアポクリン腺の発達および関連形質の関係. 第 7 回トランスポーター研究会. 2012 年 6 月 9 日～10 日;京都.
4. 内海由貴, 松尾洋孝, 高田龍平, 中山昌喜, 清水徹, 春日裕志, 中島宏, 中村好宏, 高田雄三, 河村優輔, 中村真希子, 櫻井裕, 細谷龍男, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史, 市田公美. 高尿酸血症の新たな発症機序の解明: ABCG2 の機能低下による腸管からの尿酸排泄低下. 第 7 回トランスポーター研究会. 2012 年 6 月 9 日～10 日;京都.
5. 首藤剛, 鈴木伸悟, 金子雅幸, 佐藤卓史, 高田龍平, メリーアンスイコ, 鈴木洋史, 甲斐広文. ヒト ABC トランスポーター ABCG5 および ABCG8 の E3 コピキチンリガーゼ HRD1・RMA1 による負の制御. 第 7 回トランスポーター研究会. 2012 年 6 月 9 日～10 日;京都.
6. 山本英明, 高田龍平, 小西健太郎, 山梨義英, 増尾友佑, 山本武人, 鈴木洋史. エゼチミブによるビタミン K 吸収阻害作用を介した薬物間相互作用に関する研究. 第 7 回トランスポーター研究会. 2012 年 6 月 9 日～10 日;京都.
7. 高田龍平, 山本英明, 増尾友佑, 山梨義英, 鈴木洋史. 胆汁中へのコレステロール分泌におけるトランスポートソーム. 第 7 回トランスポーター研究会. 2012 年 6 月 9 日～10 日;京都.
8. 伊藤雅方, 山梨義英, 豊田優, 高田龍平, 中瀬古寛子, 杉山篤, 鈴木洋史, 赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 STARD10 の胆汁酸調節への関与について. 第 7 回トランスポーター研究会. 2012 年 6 月 9 日～10 日;京都.
9. Hisaka A., Ohno Y., Maeda K., Yoshikado T., Sugiyama Y., Suzuki H. Classification of 371 drugs involved in significant pharmacokinetic drug-drug interactions. 19th International Symposium on Microsomes and Drug Oxidations and 12th European ISSX Meeting. 2012 年

- 6月17日～21日;Noordwijk aan Zee, Netherlands.
10. 有田玲子, 柳靖男, 本田紀彦, 前田修司, 前田耕志, 口羽文, 山口拓洋, 柳原良次, 鈴木洋史, 天野史郎. カフェインは遺伝子多型によりヒトの涙液量を増加させる. 第12回日本抗加齢医学会総会. 2012年6月22日～24日;横浜.
 11. Ichida K., Matsuo H., Takada T., Nakayama A., Murakami K., Yamanashi Y., Kasuga H., Kawamura Y., Inoue H., Okada C., Utsumi Y., Nakamura M., Shinohara Y., Shinomiya N., Suzuki H. Influence of ABCG2 dysfunction on uric acid excretion pathways. **European Human Genetics Conference 2012**. 2012年6月23日～26日;Nurnberg, Germany.
 12. 池淵祐樹, 伊藤晃成, 本間雅, 山本武人, 鈴木洋史. 患者の疾患背景に基づいた薬物誘発性肝障害の発症リスク評価. 第12回東京大学生命科学シンポジウム. 2012年6月30日;東京.
 13. 伊藤雅方, 山梨義英, 豊田優, 中瀬古寛子, 杉山篤, 鈴木洋史, 高田龍平, 赤羽悟美. 脂質転移タンパク質 STARD10 の胆汁酸調節への関与. 第126回日本薬理学会関東部会. 2012年7月14日;東京.
 14. 山口諒, 大野能之, 樋坂章博, 上野正貴, 前田和哉, 吉門崇, 杉山雄一, 鈴木洋史. 薬物動態の変化を伴う薬物間相互作用薬 2012年度版の作成～アップデートと米国FDAの薬物間相互作用ガイダンス案との比較～. 医療薬学フォーラム2012/第20回クリニカルファーマシーシンポジウム. 2012年7月14日～15日;福岡.
 15. 高田龍平, 市田公美, 松尾洋孝, 中山昌喜, 村上啓造, 山梨義英, 春日裕志, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史. ABCG2/BCRPによる腸管への尿酸排泄の低下は腎外排泄低下型高尿酸血症の原因となる. 医療薬学フォーラム2012/第20回クリニカルファーマシーシンポジウム. 2012年7月14日～15日;福岡.
 16. 伊藤晃成, 本間雅, 鈴木洋史. 医療現場における薬剤性肝障害発症予測バイオマーカーの探索: 育薬・創薬への還元を目指して. 医療薬学フォーラム2012/第20回クリニカルファーマシーシンポジウム. 2012年7月14日～15日;福岡.
 17. 鈴木洋史. 臨床現場からの医薬品適正使用・医薬品開発への提言. 医療薬学フォーラム2012/第20回クリニカルファーマシーシンポジウム. 2012年7月14日～15日;福岡.
 18. 山口諒, 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史. 添付文書における薬物間相互作用情報の記載方法の問題点と提言. 医療薬学フォーラム2012/第20回クリニカルファーマシーシンポジウム. 2012年7月14日～15日;福岡.

19. Takada T., Yamanashi Y., Suzuki H. NPC1L1 as a negative regulator of NPC2 protein. 第 44 回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 2012 年 7 月 19 日～20 日;福岡.
20. 高田龍平, 鈴木洋史. 脂溶性ビタミンの消化管吸収機構. 第 15 回 Vitamin E Update Forum. 2012 年 8 月 26 日;東京.
21. 首藤剛, 鈴木伸悟, 金子雅幸, 佐藤卓史, 高田龍平, メリーアンスイコ, 鈴木洋史, 甲斐広文. HRD1・RMA1 コビキチンリガーゼファミリーによる E3 活性依存的・非依存的なヒト ABCG5/ABCG8 蛋白質の負の制御. 第 6 回トランスポーター研究会九州部会. 2012 年 9 月 1 日;福岡.
22. 高田龍平, 市田公美, 松尾洋孝, 中山昌喜, 村上啓造, 山梨義英, 春日裕志, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史. ABCG2/BCRP による腸管への尿酸排泄の低下は腎外排泄低下型高尿酸血症をもたらす. 第 6 回トランスポーター研究会九州部会. 2012 年 9 月 1 日;福岡.
23. Yamamoto T., Hisaka A., Suzuki H. Estimation of optimal dosages of antibiotics for patients receiving continuous renal replacement therapy: A proposal for the description of pharmacokinetic data in product labeling. World Conference of Pharmacometrics 2012. 2012 年 9 月 5 日～7 日;Seoul, Korea.
24. Matsunami R., Hisaka A., Ohtsu H., Tsuda G., Ito K., Suzuki H. Ethnic Differences in Oral Clearance between East Asian and Western: Metaanalysis of 167 Studies for 26 Substrate Drugs of CYP3A4. World Conference of Pharmacometrics 2012. 2012 年 9 月 5 日～7 日;Seoul, Korea.
25. Koh S., Hisaka A., Suzuki H. Discrimination of Hepatic and Intestinal Contributions to Drug-Drug Interaction Mediated by Inhibition of CYP3A4. World Conference of Pharmacometrics 2012. 2012 年 9 月 5 日～7 日;Seoul, Korea.
26. Hisaka A., Honma M., Moritoyo T., Arakawa Y., Iwatsubo T., Suzuki H. Flexible Description of Delayed Events in Modeling of Alzheimer's Disease by Inclusion of Dispersion Term. World Conference of Pharmacometrics 2012. 2012 年 9 月 5 日～7 日;Seoul, Korea.
27. Hisaka A., Ando H., Yamamoto T., Suzuki H. Miscellaneous Modeling and Simulations by Using Napp. World Conference of Pharmacometrics 2012. 2012 年 9 月 5 日～7 日;Seoul, Korea.
28. Fujino T., Hisaka A., Koshimichi H., Suzuki H. Estimation of

- Doses for Infants and Premature Infants Based on Physiological Development of Hepatic and Renal Functions. **World Conference of Pharmacometrics 2012**. 2012年9月5日～7日;Seoul, Korea.
29. 山本武人, 安野伸浩, 樋坂章博, 花房規男, 片田正一, 矢作直樹, 鈴木洋史. 持続血液浄化療法施行時の抗菌薬の投与量設計-薬物動態学的解析を用いたアプローチ-. **第6回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会**. 2012年9月15日～16日;札幌.
30. 田代雄祐, 酒井玲, 牧野利明, 水上元, 杉浦智子, 加藤将夫, 高田龍平, 鈴木洋史, 松尾洋孝 (順不同). 生薬からの尿酸トランスポーターURAT1 阻害物質の探索. **日本生薬学会第59回年会**. 2012年9月17日～18日;千葉.
31. 中山昌喜, 松尾洋孝, 高田龍平, 清水徹, 春日裕志, 中島宏, 中村好宏, 高田雄三, 河村優輔, 内海由貴, 中村真希子, 櫻井裕, 細谷龍男, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史, 市田公美. ABCG2 機能低下による「腎外排泄低下型」高尿酸血症. **第127回日本薬理学会関東部会**. 2012年10月20日;埼玉.
32. 松尾洋孝, 高田龍平, 中山昌喜, 清水徹, 春日裕志, 中島宏, 中村好宏, 高田雄三, 河村優輔, 内海由貴, 中村真希子, 櫻井裕, 細谷龍男, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史, 市田公美. ABCG2 遺伝子変異に基づく高尿酸血症の病態解明と新規病型分類. **日本人類遺伝学会第57回大会**. 2012年10月24日～27日;東京.
33. 山田麻衣子, 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史. 腎排泄寄与率の情報を腎障害患者の投与設計に有効に使うために. **第22回日本医療薬学会年会**. 2012年10月27日～28日;新潟.
34. 山口諒, 大野能之, 樋坂章博, 鈴木洋史. 添付文書における薬物間相互作用情報の記載方法の問題点と提言. **第22回日本医療薬学会年会**. 2012年10月27日～28日;新潟.
35. Matsuo H., Takada T., Nakayama A., Shimizu T., Kasuga H., Nakashima H., Nakamura T., Takada Y., Kawamura Y., Utsumi Y., Ogata H., Nakamura M., Sakurai Y., Hosoya T., Shinomiya N., Suzuki H., Ichida K. Common dysfunctional variants of ABCG2 decrease extra-renal urate excretion and cause hyperuricemia. **ASHG2012 Annual Meeting**. 2012年11月6日～10日;San Francisco, USA.
36. 田代雄祐, 酒井玲, 牧野利明, 杉浦智子, 加藤将夫, 高田龍平, 鈴木洋史, 松尾洋孝, 水上元. 蛇床子の尿酸トランスポーターURAT1 阻害作用とその活性成分.

- 第 42 回日本東洋医学会東海支部
学術総会. 2012 年 11 月 11 日;名古屋.
37. Yamamoto T., Terakawa H.,
Hisaka A., Suzuki H.
Construction of the Mutabale
Covariates Model which enables
the pharmacokinetic analysis
with unstable drug clearance
and its application for the
patients receiving vancomycin
therapy. 第 27 回日本薬物動態学
学会年会. 2012 年 11 月 20 日~22
日;東京.
38. Ito N., Ito K., Koshimichi H.,
Hisaka A., Honma M., Suzuki H.
Contribution of protein binding
and partition to lipid to more
extensive transfer of drugs into
milk in mouse compared with
human. 第 27 回日本薬物動態学
学会年会. 2012 年 11 月 20 日~22
日;東京.
39. 高田 龍平, 鈴木 洋史.
Lifestyle-related diseases and
transporters. 第 27 回日本薬物動
態学会年会. 2012 年 11 月 20 日~
22 日;東京.
40. Hisaka A., Suzuki H.
Reconsideration on Preciseness
and Efficiency of Numeric
Calculation of Inverse Laplace
Transform with FILT;
Implementation in Napp. 第 27
回日本薬物動態学会年会. 2012 年
11 月 20 日~22 日;東京.
41. Ando H., Hisaka A., Suzuki H.
Significance of Blood Flow
Changes on Oral Drug
Absorption; Simulation Using
a PBPK Model Composed of
Intestinal Translocation and
Hepatic Dispersion Models. 第
27 回日本薬物動態学会年会. 2012
年 11 月 20 日~22 日;東京.
42. Yamamoto T., Hisaka A., Suzuki
H. Pharmacokinetic Analysis of
Vancomycin in Patients
Receiving Peritoneal Dialysis
and its Application for
Individual Dosage Setting. 第 6
回次世代を担う若手医療薬科学シ
ンポジウム. 2012 年 11 月 23 日~
24 日;京都.
43. Toyoda Y., Moriya K., Tamai M.,
Takada T., Suzuki H.,
Kashikura K., Soga T., Tagawa
Y.I. Acetaminophen-induced
hepatotoxicity in a liver tissue
model consisting of primary
hepatocytes assembling around
an endothelial cell network. 第 6
回次世代を担う若手医療薬科学シ
ンポジウム. 2012 年 11 月 23 日~
24 日;京都.
44. 本間雅, 雨宮貴洋, 苅谷嘉顕, 久
米春喜, 鈴木洋史. ANALYSES
OF MOLECULAR
MECHANISMS OF SUNITINIB
MULTI-ORGAN TOXICITY. 第
6 回次世代を担う若手医療薬科学
シンポジウム. 2012 年 11 月 23 日

- ～24日;京都.
45. Kariya Y., Honma M., Ghosh S., Kitano H., Suzuki H. Non-biased approach to build an apoptosis simulation model as a part of cardiotoxicity prediction. 第6回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム. 2012年11月23日～24日;京都.
46. Ikebuchi Y., Honma M., Kariya Y., Hayashi M., Hayashi N., Aoki S., Suzuki H. Osteocytic RANKL contributes to osteoclastogenesis in a direct cell-to-cell contact through the dendritic processes. 第6回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム. 2012年11月23日～24日;京都.
47. 高田龍平. コレステロールの胆汁分泌制御におけるトランスポーター群の相互制御・機能連関. 生理学研究所研究会 細胞センサーの分子機構・相互関連・ネットワーク研究会. 2012年11月29日～30日;岡崎.
48. 高田龍平, 市田公美, 松尾洋孝, 中山昌喜, 村上啓造, 山梨義英, 春日裕志, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史. 尿酸トランスポーター ABCG2/BCRP の機能低下型遺伝子多型は腎外排泄低下型高尿酸血症をもたらす. 第33回日本臨床薬理学会学術総会. 2012年11月29日～12月1日;那覇.
49. 松波梨花, 樋坂章博, 大津洋, 津田玄輝, 伊藤清美, 鈴木洋史. 薬物動態の人種差の評価を可能にする臨床薬理試験の被験者数の設定: 個人間差と試験間差についての考察. 第33回日本臨床薬理学会学術総会. 2012年11月29日～12月1日;那覇.
50. 首藤剛, 鈴木伸吾, 佐藤卓史, 金子雅幸, 高田龍平, メリーアンスイコ, 鈴木洋史, 甲斐広文. HRD1・RMA1 ユビキチンリガーゼファミリーによる E3 活性依存的・非依存的なヒト ABCG5/ABCG8 蛋白質の負の制御. 第85回日本生化学会大会. 2012年12月14日～16日;福岡.
51. 松尾洋孝, 高田龍平, 中山昌喜, 清水徹, 春日裕志, 中島宏, 中村好宏, 高田雄三, 中村真希子, 櫻井裕, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史, 市田公美. 痛風病関連遺伝子 ABCG2 の解析による高尿酸血症の新規病態の解明. 第23回日本疫学会学術総会. 2013年1月24日～26日;大阪.
52. 高田雄三, 松尾洋孝, 高田龍平, 清水徹, 四ノ宮成祥, 市田公美. ABCG2 遺伝子タイピングに基づく高尿酸血症における新規病型分類の提唱. 第23回生物試料分析科学学会年次集会. 2013年2月10日～11日;大阪.
53. 中山昌喜, 松尾洋孝, 市田公美, 高田龍平, 岡田千沙, 清水聖子, 千葉俊周, 崎山真幸, 細谷龍男, 四ノ宮成祥. 腎性低尿酸血症の実

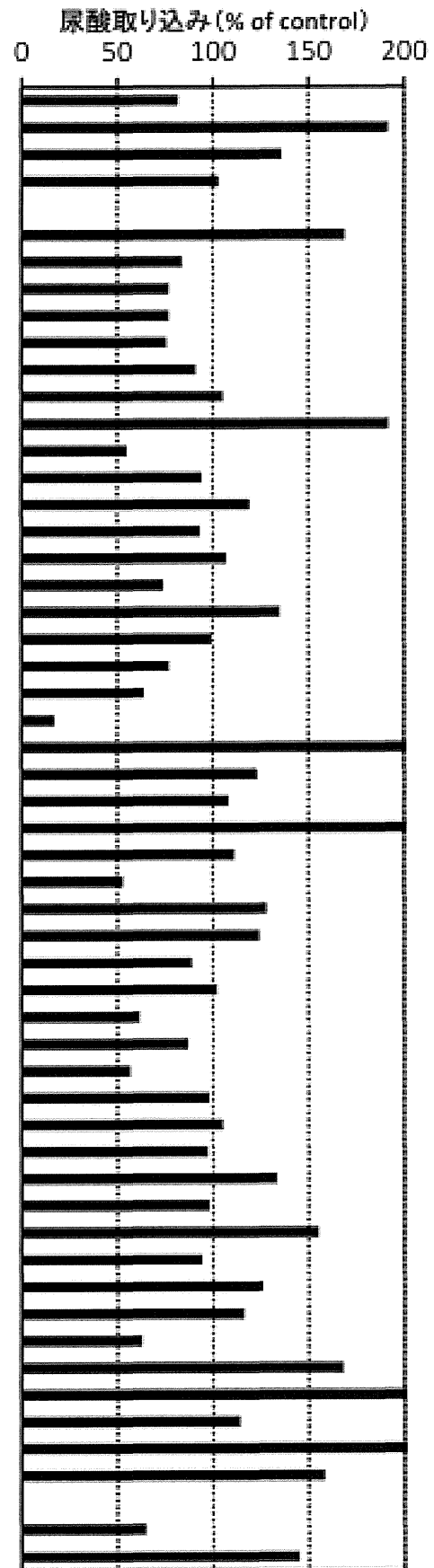
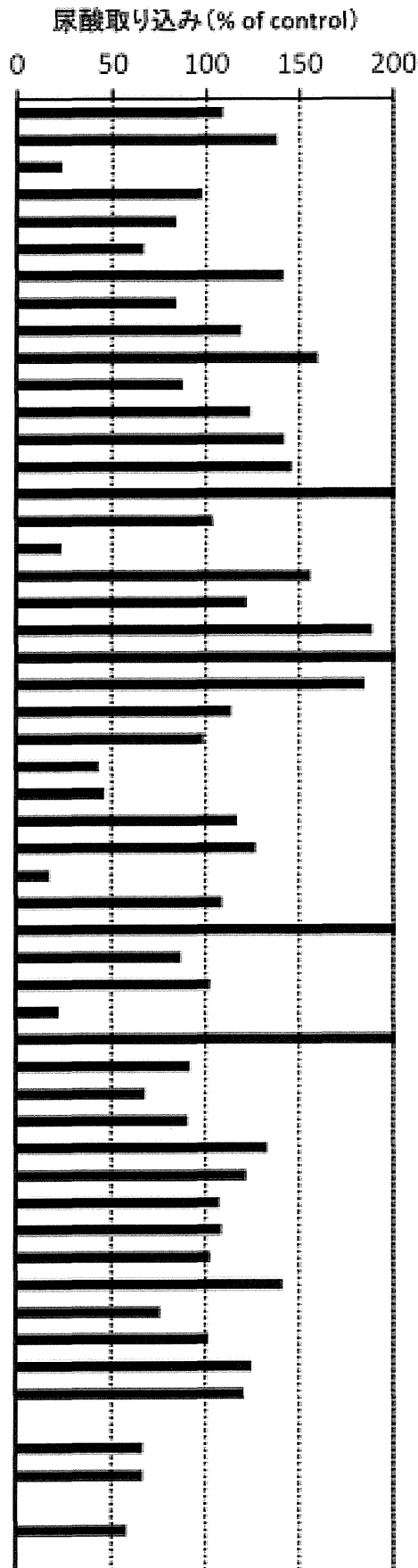
- 態把握調査について(第1報). 第46回日本痛風・核酸代謝学会総会. 2013年2月14日~15日;東京.
54. 齊藤剛, 松尾洋孝, 市田公美, 高田雄三, 中山昌喜, 高田龍平, 山口敏和. PCR-Invader 法による ABCG2 遺伝子多型解析. 第46回日本痛風・核酸代謝学会総会. 2013年2月14日~15日;東京.
55. 松尾洋孝, 高田龍平, 中山昌喜, 清水徹, 高田雄三, 井上寛規, 岡田千沙, 中村真希子, 細山田真, 四ノ宮成祥, 細谷龍男, 市田公美. ABCG2 の機能低下による腎外の尿酸排泄低下: 高尿酸血症の症例解析と動物モデル解析. 第46回日本痛風・核酸代謝学会総会. 2013年2月14日~15日;東京.
56. 高田龍平. コレステロール・脂溶性ビタミンの腸管吸収機構. 第91回日本栄養・食糧学会関東支部大会シンポジウム. 2013年2月16日;東京.
57. Suzuki H. Challenges to clarify the mechanism of heart toxicity of sunitib based on systems-biological approach. **Systems Pharmacology for the Prediction of Tyrosine Kinase (TKI workshop)**. 2013年2月28日~3月1日;Silver Spring, MD, USA.
58. 市田公美, 松尾洋孝, 高田龍平, 中山昌喜, 清水徹, 春日裕志, 中島宏, 中村好宏, 高田雄三, 河村優輔, 内海由貴, 中村真希子, 櫻井裕, 細谷龍男, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史. 尿酸の腸管排泄低下は高尿酸血症の主要な新規機序である. 日本消化器学会第99回総会. 2013年3月21日~23日;鹿児島.
59. 高田龍平, 市田公美, 松尾洋孝, 中山昌喜, 村上啓造, 山梨義英, 春日裕志, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史. Decreased ABCG2-mediated urate excretion from intestine is a common cause of hyperuricemia. 第86回日本薬理学会年会. 2013年3月21日~23日;福岡.
60. 松尾洋孝, 高田龍平, 中山昌喜, 清水徹, 中島宏, 中村好宏, 高田雄三, 櫻井裕, 細谷龍男, 四ノ宮成祥, 鈴木洋史, 市田公美. 腸管における尿酸排泄の低下は高尿酸血症の新規機序である. 第90回日本生理学会大会. 2013年3月27日~29日;東京.
61. 藤野知子, 越道大樹, 樋坂章博, 鈴木洋史. 生理学的発達を考慮した新生児を含む小児のための薬用量予測式の構築. 日本薬学会第133年会. 2013年3月27日~30日;横浜.
62. 首藤剛, 鈴木伸吾, 佐藤卓史, 金子雅幸, 高田龍平, スイコメリアン, 鈴木洋史, 甲斐広文. HRD1・RMA1 ユビキチンリガーゼファミリーによる E3 活性依存的・非依存的なヒト ABCG5/ABCG8 蛋白質の負の制御. 日本薬学会第133年会.

- 2013年3月27日～30日;横浜.
63. Matsuo H., Sander S.E., Hamann M., Richter A., Hamada T., Nakayama A., Utsumi Y., Kawamura Y., Hiroyuki O., Kaida K., Kobayashi Y., Kamakura K., Shinomiya N. Genetic analysis of paroxysmal dystonic choreoathetosis (PDC/PNKD); Patient and hamster model study. the 16th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders. 2012年6月17日～21日;Dublin, Ireland.
64. 高田雄三, 松尾洋孝, 中山昌喜, 中島宏, 松村耕治, 鈴木康司, 浜島信之, 櫻井裕, 四ノ宮成祥, 小林靖. 全自動 SNP タイピング装置を利用した痛風の遺伝子タイピング. 日本 DNA 多型学会第 21 回学術集会. 2012 年 11 月 7 日～9 日;京都.
65. 白帆, 牧野利明, 小野孝彦, 水上元. 5/6 腎摘ラットにおける腎性高血圧に対する七物降下湯の降圧作用機序. 第 55 回日本腎臓学会学術総会. 2012 年 6 月 1～3 日;横浜.
66. 田中和貴, 金丸美咲, 水谷優希, 寺坂和祥, 牧野利明, 水上元. 植物酵素による糖転移ケルセチンの生産とその消化管吸収特性. 日本食品化学学会第 18 回総会・学術大会. 2012 年 6 月 21～22 日;函館.
67. Makino T. Effect of traditional Chinese medicines on transporters – a new research target for TCM –. The Foundation Conference of Specialty Committee of TCM Pharmaceutical Chemistry of WFCMS & the First Annual Academic Conference. 2012 年 7 月 21～22 日;Harbin, China.
68. 全智揚, 牧野利明, 手塚康弘, 井上勝央, 水上元. 有機アニオントランスポーターを介する漢方薬と西洋薬の相互作用. 第 28 回和漢医薬学会学術大会. 2012 年 9 月 1～2 日;東京.
69. Bai F., Makino T., Ono T., Mizukami H. Anti-hypertensive effect of shichimotsukokato in 5/6 nephrectomized Wistar rats is mediated by DDAH-ADMA-NO pathway. The 16th International Congress of Oriental Medicine. 2012 年 9 月 14～16 日; Seoul, Korea.
70. Sugi M., Kagioka A., Makino T., Yamamoto S., Ohsawa M., Ono H., Mizukami H. Effect of processed aconite root on oxalipratin-induced neuropathic pain. The 16th International Congress of Oriental Medicine. 2012 年 9 月 14～16 日; Seoul, Korea.
71. Fueki T., Matsuoka T., Beppu M., Yamaguchi H., Nakata H., Rai K., Sakai Y., Nagasaka K.,

- Makino T., Namiki T., Okada K., Iwai Y., Makizumi K. Difference of water hardness on preparing the decoction of Ephedrae Herba: Especially focused on the comparison of tap water between Japan and China. **The 16th International Congress of Oriental Medicine**. 2012年9月14～16日; Seoul, Korea.
72. 高勝莉, 牧野利明, 水上元. Ginsenoside 類の消化管吸収に対するグルコーストランスポーター SGLT1 の関与. **日本生薬学会第 59 回年会**. 2012年9月17～18日; 木更津.
73. 牧野利明. 石膏の謎を探る～なぜ、不溶性塩である石膏が漢方薬の中で有効性を示すのか. **日本東洋医学会関西支部 2 府 4 県合同教育講演会**. 2012年9月30日;神戸.
74. 田中和貴, 金丸美咲, 水谷優希, 寺坂和祥, 牧野利明, 水上元. 植物酵素による糖転移ケルセチンの生産とその消化管吸収特性. **フォーラム 2012 衛生薬学・環境トキシコロジー**. 2012年10月25日; 名古屋.
75. 高勝莉, 牧野利明, 水上元. 人参成分 ginsenoside 類のグルコーストランスポーター SGLT1 阻害作用. **第 42 回日本東洋医学会東海支部学術総会**. 2012年11月11日; 名古屋.
76. 牧野利明. 生薬の解説: 蒼朮と白朮について. **日本東洋医学会関西支部六県合同教育講演会**. 2013年2月24日;大阪.
77. 牧野利明. 漢方専門医のための生薬学入門～漢方専門医は生薬を知らなくていいのですか? **日本東洋医学会東北支部教育講演会**. 2013年3月3日;仙台.
78. 牧野利明. 医療人がそなえるべき漢方薬の薬理と薬能について. **第 86 回日本薬理学会年会**. 2013年3月23日;福岡.
79. 森永紀, 牧野利明, 大北剛司, 水上元, 正山征洋. 甘草の副作用、偽アルドステロン症発症推定原因物質 3MGA の ELISA による定量法の開発. **日本薬学会第 133 回年会**. 2013年3月30日;横浜.

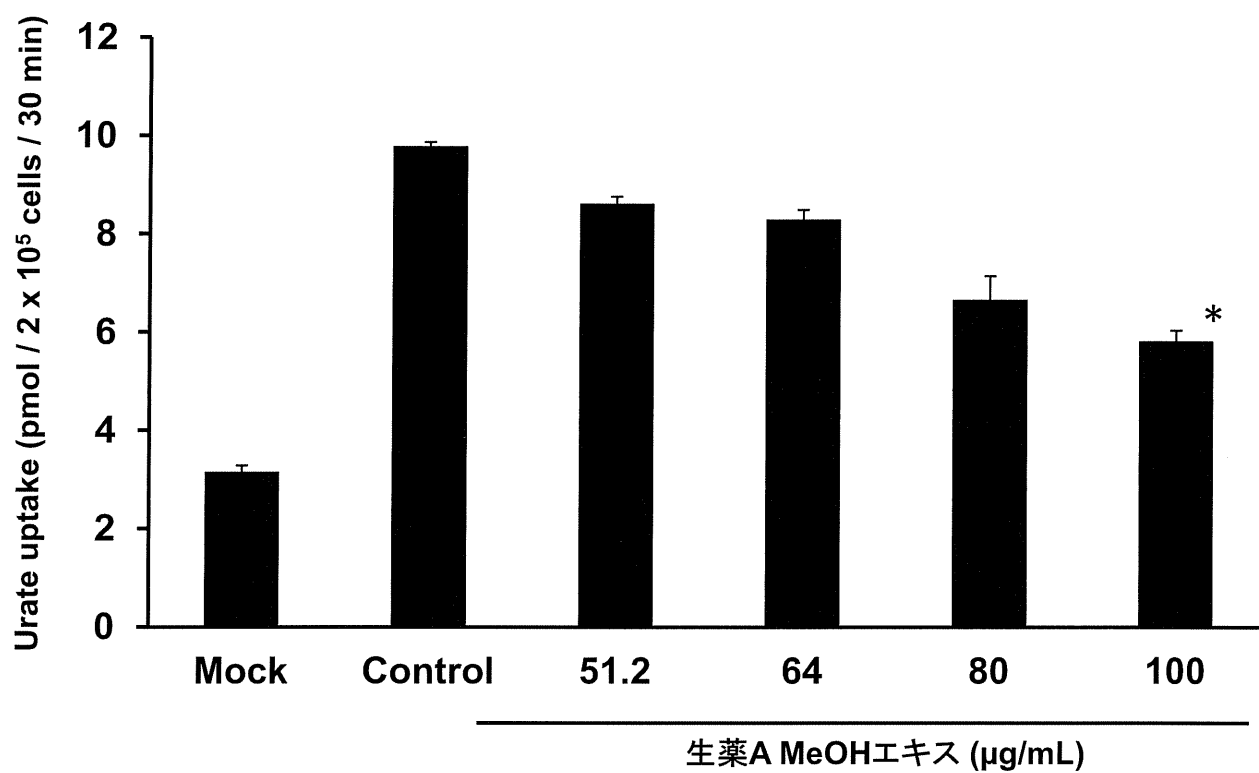
H. 知的財産権の出願・登録状況

該当ありません。



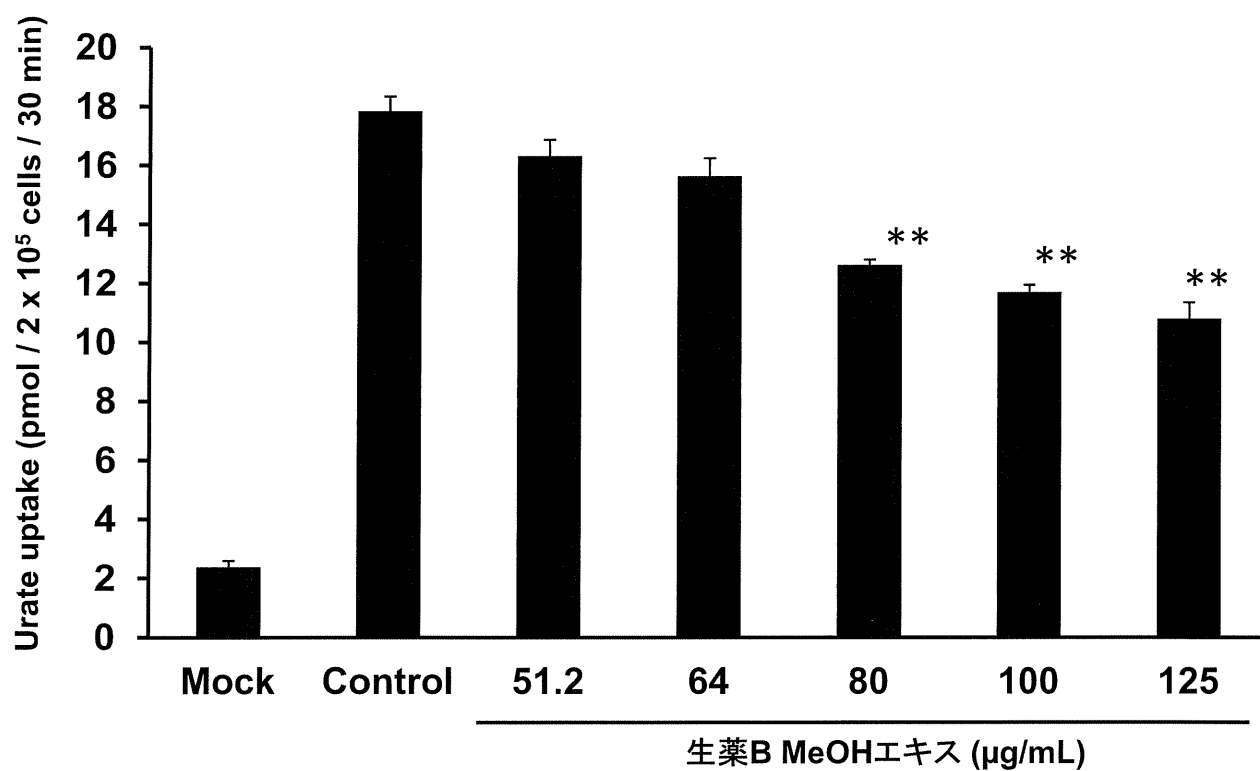
生薬エキス (100 $\mu\text{g}/\text{mL}$) によるURAT1阻害活性(% of control)

個々のカラムが各一種類の生薬の結果を示す。



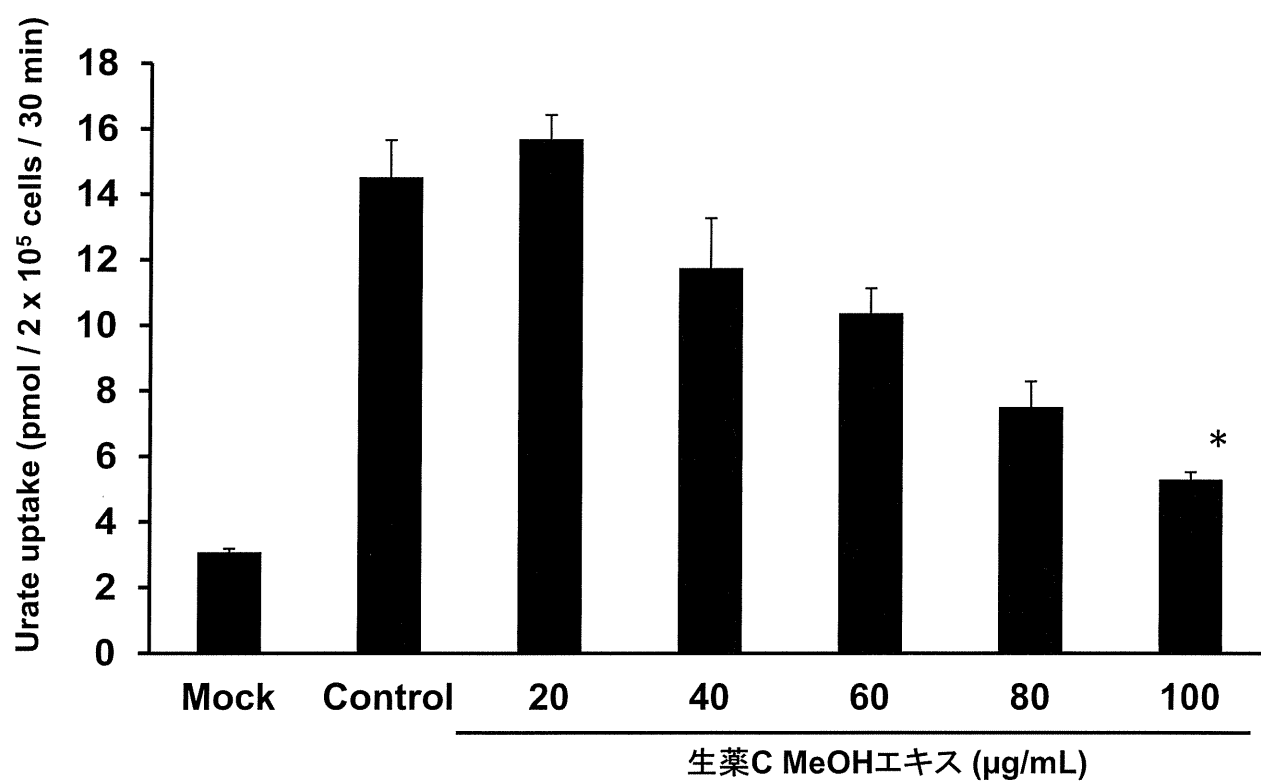
生薬A MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$). * $p < 0.05$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.



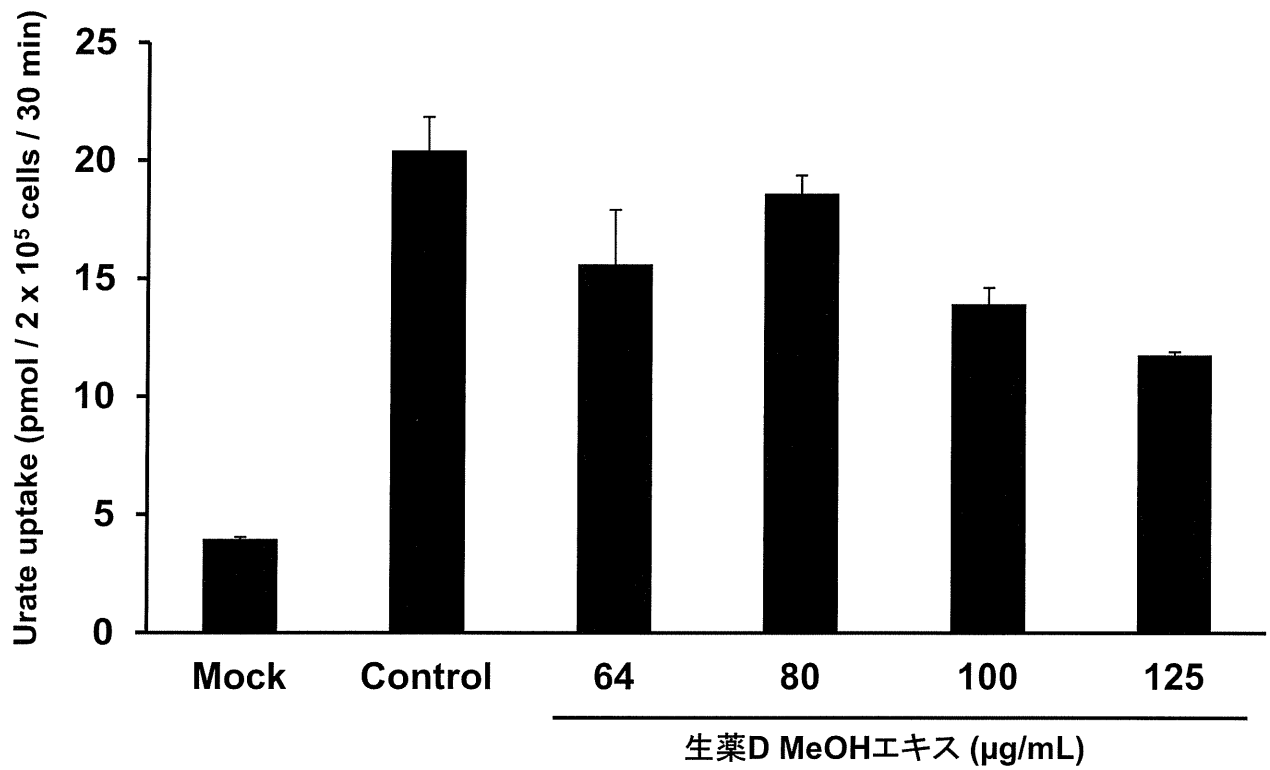
生薬B MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$). ** $p < 0.01$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.



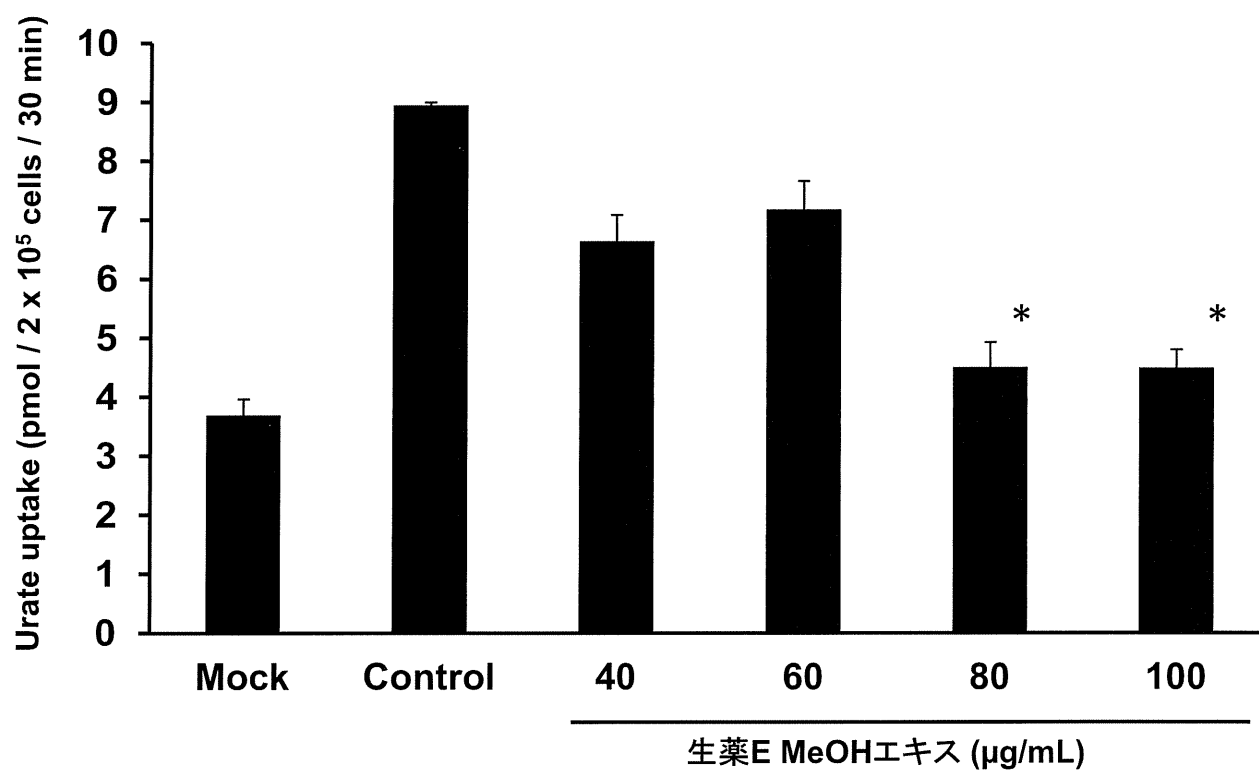
生薬C MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$). * $p < 0.05$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.



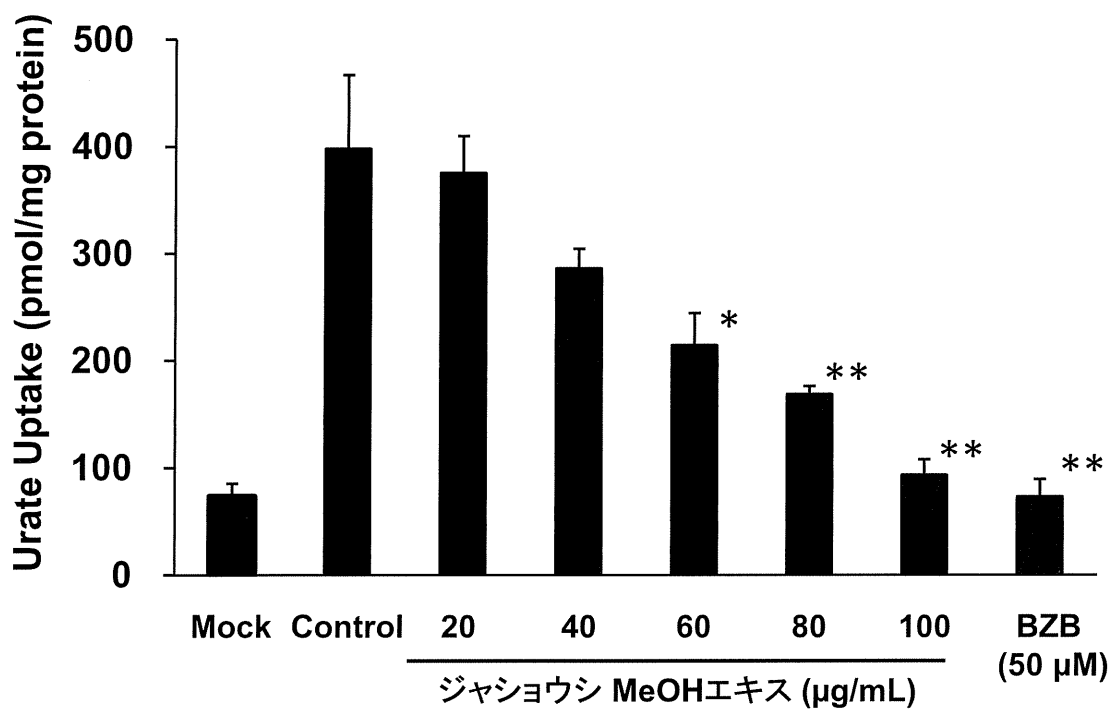
生薬D MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean ± S.E. (*n* = 3).



生薬E MeOHエキスのURAT1阻害活性

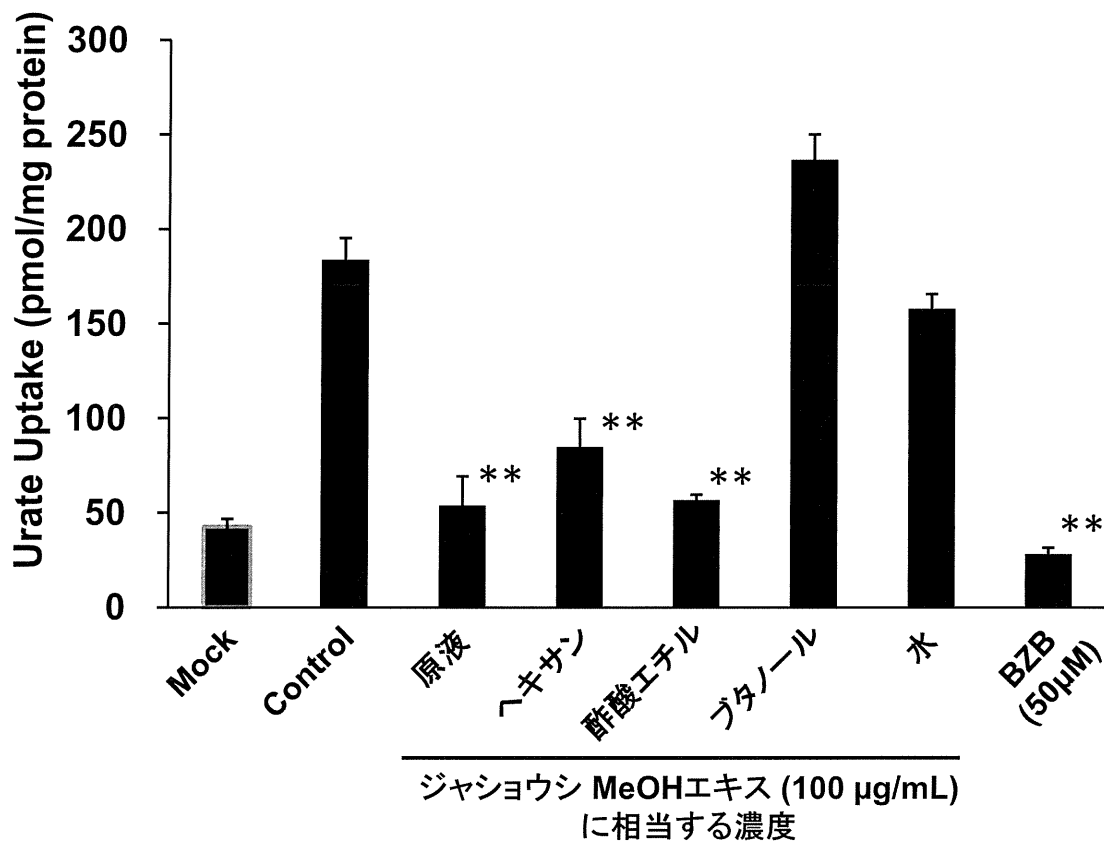
Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$). * $p < 0.05$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.



ジャシヨウシ MeOHエキスのURAT1阻害活性

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$).

BZB: benzbromarone (positive control). * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.



ジャショウシ MeOHエキスおよびその分画物のURAT1阻害活性

“原液”は分画する前のジャショウシ MeOHエキスを示す。

Data was expressed as mean \pm S.E. ($n = 3$). ** $p < 0.01$ vs control evaluated by Bonferroni/Dunn's multiple t -test.